

Weekly Michael's News

2016年5月31日発行 No.2

<今週の聖句>

「新しい歌を主に向かって歌え。主は驚くべき御業を成し遂げられた。右の御手、聖なる御腕によって主は救いの御業を果たされた。」
(詩篇 98:1)

<隔週火曜日は音楽礼拝!! 優雅なパイプオルガンの演奏で心を癒し清めてみませんか…?>

今年度5月からチャペルでは新しい取り組みを始めています。それは隔週火曜日の「音楽礼拝」です!! この日は、お話でなく、KIUオルガニストの伊藤純子先生による演奏を中心とした礼拝です。チャペルに響き渡るパイプオルガンの音は、耳にも、お腹にも、そして当然心にも大きな力を与えてくれるようで、またチャペルの静寂とも相まって心を清らかにしてくれる時間を過ごすことができます。伊藤先生から「『パイプオルガンってすごい!』から『弾いてみたい!』というエネルギーにつながって欲しい…そんな気持ちでオルガンの会を立ち上げました。ちょっと心をこめて奏でると音と響きがガラッと変わってびっくり。小さな出来事一つひとつに鳥肌を立てながら、オルガンとの時間が進みます。忙しい毎日、このオルガンとの短い時間は、特別な癒しの時間、毎週これを繰り返していると、知らないうちに弾けるようになります。お待ちしております。」というコメントを頂きました。次回は6月7日、ぜひ一度ご来場頂く事を強くお勧めします!! 「百聞は一聴にしかず」です!!



演奏を皆で聴き合う…

<これこそ建学の精神「仕えよ」の具現化!! サーバー(礼拝奉仕者)大募集中!!>

先日、ふらりとチャペルにやってきた女子学生二人の口からこんな言葉が飛び出しました。

「私たち、サーバーをやってみたいんですけど…」

以前から学生・教職員も一緒になって礼拝を盛り上げていきたいと願っていた私たちにとって、本当に嬉しい、神様からのプレゼントのような言葉でした!! 早速、スケジュールや担当する仕事の内容を確認し、先週の火曜日から礼拝開始の鳴鐘や聖書朗読、またロウソクの消灯などを担当してもらっています。フレンドシップ会員の方にも「学生さんが積極的に加わってくれて



緊張したけど楽しかった!!

礼拝に一体感が生まれましたね!!」と喜びのコメントも頂きました!! 「サーバー」とは、PCデータを管理したり、冷たいビールを注いだりする物でもなく、「礼拝の奉仕をする者(Server=奉仕者)」という意味の言葉です。それこそ「神に仕え」る事を建学の精神に謳うKIUにとって、最も相応しい、また積極的に取り組むべき働きである!!と言っても過言ではありません。現在、月・水・金の担当者が未定の状態ですので、広く大募集中です!! 作業はチャプレンが1から優しくレクチャーしますので礼拝や教会に行った事のない人でもOKです。興味・関心がある人は、一度キリスト教センターまでお声かけ下さい!!

5月23日(月) 前田 次郎(八代学院 理事長) テーマ:「家庭教育」

新聞に「貧困ビジネス」という言葉があり、貧者から生活資金を巻き上げる様に心が痛んだ。一方、公共事業の運営調査団体は、表向き不正を無くすと言いながらいい加減な調査を行い、人員の多くは官庁からの天下りで使途不明金が数億円と聞く。今日の聖書箇所である申命記は、「魂を尽くして主なる神を愛せ」という律法の基本を示しており、イスラエルはこれを家族教育の中心に据え、自らの歩みの指針としてきた。社会が混迷を極める時代、私たちも時代や文化を超えた真理を一人ひとりの土台に据えて共に歩みを進めたい。

5月25日(水) 南場 芳文(リハビリテーション学部) テーマ:「言葉の力のつかいかた」

仕事上、大学では学生に、病院では患者さんに話しかける時、一番気をつけているのが「言葉」だ。そもそも「言葉」は、「事端」や「事羽」と書き、口に出した内容があまりに強すぎるので、現実のものにならないように「端」や「羽」をつけたと言われており、私たちの周りの大きな力の流れを司っているように思う。私たちが共に生きる社会、そこでは「言葉」で相手を傷つけるのではなく、目の前の相手が「どんな言葉をかけてほしいのか?」を考えながら、優しさの源となるような「言葉」を心がけたい。

5月26日(木) 野間 光顕(チャプレン) テーマ:「言葉の魅力」

先日 Amazon で買い物をしたら、届いた明細書に小さな付箋が貼ってあり、直筆で感謝の言葉が書かれていた。何でも PC で処理できるこの便利な情報化社会の中で、粹な計らいを感じたのと同時に、どれだけ情報機器が発達しても人間の繋がりの原点は変わらないことを感じた。新約聖書は、ほとんどが手紙であり、またキリスト教は、手紙によって繋がりを確認してきた宗教だ。今週からキリスト教センターでも手紙(チャプレン通信)を発刊するが、この小さな取り組みが KIU の繋がりをより深めることを心から願う。

5月27日(金) 白砂 伸夫(経済学部) テーマ:「変容する北京」

先週、北京で開催された世界バラ会議で講演する機会を得た。北京は 10 年前に訪れたが、幾つかの点で大きく変容した点に気付いた。まず環境問題。PM2.5 が深刻な大気汚染を引き起こし健康被害も深刻になっているが、その問題にはほとんど取り組めていない。次に都市景観。北京オリンピックを皮切りに、国家的課題として近代化を進めた北京。古い住宅群は一掃され、近代的なビルが立ち並びそのデザインも世界一流の建築家によるもの。世界一を目指す国家的意図が表現されているが、伝統的な四合院型の民家の多くは姿を消し、昔のような悠長な生活は近代的生活様式に飲み込まれていた。

最後に緑化計画について。10 年前、道路際にたくさん植えられていたポプラの苗木。現在では大木に成長し、高速道路や主要幹線を緑で覆っている。北京の市の花がバラであり、今回の会議を期に街の至る所にバラが植えられていた。北京はバラにおいても世界一を目指す。中国の経済が世界的発展と遂げた折には、きっと環境都市として名乗りを上げるその準備段階に、今、北京はあるのだと思う。